

独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院

令和5年度 第2回地域連絡協議会議事録

【日時】令和5年12月1日（金）18:00-18:40

【場所】佐賀中部病院 2階会議室

【出席者】吉原正博（佐賀市医師会長） 枝國源一郎（佐賀市医師会理事） 浅見豊子（佐賀大学リハビリテーション科診療教授） 坂本龍彦（佐賀中部保健福祉事務所保健監） 蘭英男（佐賀市保健福祉部部長） 杉田博治（地域住民代表） 園畑素樹（院長） 岡洋右（副院長） 内田賢（副院長） 辻信介（健康管理センター長） 國重顕（事務長） 時里玉栄（看護部長）

以下当院会議支援参加者

富山ルミ（副看護部長） 高塚英二（事務長補佐） 一尾忍（事務長補佐）
山下将司（副看護師長） 古賀実希（看護師） 服部真和（MSW）
杉野遥香（事務員）

【概要】

1.病院の現状と今後の取り組みについて 園畑素樹院長より

2.令和5年度病院経営状況報告について 國重顕事務長より

佐賀中部病院運営状況報告資料を参照

3.（質疑応答）

〈救急の受入について〉

・枝國理事：救急搬送は夜間・休日も増えているのか？

國重事務長：増えている。

枝國理事：夜間休日の救急受入はとても助かっている。

園畑院長：日によってムラがある。1日8台の日もあれば、1台の日もある。1日平均約4台程度となっている。

・浅見豊子先生：救急受入件数が増加している。受入率83.6%とこれだけがんばっているが、100%にならないのは一度に集中して患者が来ているからか？また、現場職員のモチベーション維持について工夫していることはあるか？

園畑院長：相談自体が重なることや状態が悪い患者の対応時などは受け入れできていないケースもある。

JCHO 関連施設においては97~98%の病院もあるが、当院としても90%を超えるように努めたい。

時里看護部長：当院の目標を看護師長、看護副師長を中心に各スタッフへ情報周知が

できている。方法としては毎朝のミーティングには看護師長や看護副師長が参加しており、内容を職員へ伝達している。救急の受入数が増えているが、看護師の定数が増えたわけではない。8月からは夜勤看護師を1名増やしており、夜間帯の救急受入の貢献になっていると考えている。

- ・枝國理事：以前は一般の紹介（転院）について断っている印象があった。救急の受入もだが、一般の受入についても良くなってきているので地域において中部病院の印象がいい方で広まってきているのではないかと？

園畑院長：地域連携室を中心に対応している。以前は受入についての返事が1週間以上かかることもあったが、現在は日をまたがず返事をするように意識をしている。以前よりはスピード感を意識した対応となっており、紹介の患者の受入も良くなってきた。

〈広報活動について〉

- ・吉原会長：ぶんぶんテレビの放送について、6分間35回の放送にかかる費用はどのくらいかかっているか？

園畑院長：これまで女性アスリート外来、睡眠時無呼吸センター、ギャラリーストリートなど取り上げてもらっているが、広報に係わる費用としては無料で実施できている。

〈睡眠時無呼吸外来について〉

- ・吉原会長：外来件数においてとびいりが多いか？予約が多いか？

内田副院長：どちらも多い。精密検査ができる病院が佐賀県内では少ない現状で県外からの患者や、メディアや友人から聞いて来院する患者もいる。

吉原会長：期間はどのくらいかかっているか？

内田副院長：1泊2日の精密検査となっている。16時頃入院し、翌6時から7時くらいに退院している。結果は2週間後くらいに出る。

園畑院長：おもしろいことに、自宅と同じ生活をするということで飲酒も可能。ビール一本程度で、部屋からは出ないというルールを設けている。

〈その他〉

- ・岡副院長：地域の病院へ直接訪問し、先生方と直接話す機会もあった。そのときに「対応がはやくなってきた」などお褒めの言葉を頂くこともあった。現在やっていることを継続できるよう、努めていきたい。
- ・内田副院長：JCHOの病院は地域に根ざす病院として、地域に還元し支えていく病院と考える。地域完結型の病院として、継続的に救急受入、紹介を積極的に受けていくことや、逆紹介を行い、新たな患者を受けていくなど、地域医療連携を心がけたい。